

平成20年度第一回 GBIF 日本ノード委員会議事要旨

日 時：平成20年7月14日（月）13：30～15：45

場 所：国立科学博物館 新宿分館資料館1階会議室

出席委員：伊藤委員長 岩槻委員 土田委員 菊池委員 佐藤委員 城石委員 白山委員
菅原委員 多田内委員 松浦委員 馬渡委員 宮崎委員 山崎委員

オブザーバー：文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 事務官 竹内 佑介
東京大学PD 神保 宇嗣

事務局：国立遺伝学研究所管理部研究推進課 副課長 新田清隆
研究支援チーム 齊藤麻衣子
教育支援チーム 太田尚希

議 事

1. 2008年度「地球規模生物多様性情報機構の日本ノードの活動」計画について

(1) 国立遺伝学研究所活動計画

菅原委員から、資料2に基づきデータ登録・公開について昨年度の実績および今年度の予定について説明があり、特に登録公開支援ツールの作成と DarwinCore の拡張、GBIF ポータルサイトの利用状況等について報告があった。

また、ポータル利用マニュアルの和訳を作成したことの報告とあわせて修正等についてご意見を頂きたい旨の依頼があった。

(2) 東京大学活動計画

伊藤委員長から、資料3に基づき、今年度も GBIF 理事国会議や TDWG 開催の国際ワークショップ・シンポジウム等に参加し、最新の国際標準の動向調査等を行なうとの説明があった。また、和名を学名に変換する種名チェックリストについてはテスト公開まで進んでいるが、動物種においてはまだ網羅できていないので、今後は関係者の協力を得て充実させていきたいとの報告があり、生物分布情報の収集・電子化の状況と今後の予定および日本固有の種に関する情報の蓄積・公開システムの構築等について補足説明があった。

(3) 国立科学博物館活動計画

松浦委員から、資料4に基づき、生物多様性情報の既存データを国際標準フォーマットに変換できる電子ツールの作成および標本情報の電子化・データベース構築の予定数等について説明があった。また、自然地名辞書の充実と各自治体のレッドデータブック掲載種リストの改訂、GBIF の国内ワークショップの実施予定及び概要について説明があった。

2. その他

(1) GBIF 第二期計画の「5年間で10億件の分布情報のデータを収集して公開する」という目標にして日本がどのように貢献していくかの方策について意見交換がなされた。

(2) 委員長から、今後メール等により引き続き情報交換したい旨報告があり、閉会した。